

歌舞伎公演 & ワークショップ

第一部 歌舞伎の楽しみ方 立ち廻り《参加型》

テレビや映画などの戦いのシーンの部分のことを専門用語で「殺陣(たて)」と言います。一方で、映画やテレビができる前、江戸時代から続く歌舞伎では「立ち廻り」という言葉を使います。

「殺陣」というと、一般的には「本当に戦っているように見える」ことや「スピード感」が重要視されますが、歌舞伎の「立ち廻り」では、「如何に舞台を一枚の躍動感のある絵のように見せるのか」ということが重要視されます。これは殺陣が映画やテレビなど、カメラワークと一体となった世界で使われるのに対し、歌舞伎の立ち廻りが基本的には舞台を見に来た観客席の視点からの世界で発展してきたという違いがあるのかもしれません。

今回皆様にご覧いただく立ち廻りには、いくつかの「型(かた)」と言われるものがございます。刀を構え、山を切るように刀を振る「やまがた」と言われるものや、「霞(かすみ)」「からうす」など、名称を聞くだけでも、歌舞伎の雰囲気は伝わるかと思います。また、立ち廻りと聞くと、「あぶない」というイメージを持たれるかも知れませんが、当日ご覧いただくこの「型」というものがあるおかげで、相手を絶対に傷つけない動きとなっていることを確認いただけたと思います。歌舞伎が生まれて400年以上、伝統の中で培われてきた、知恵や工夫を鑑賞いただければ幸いです。



第二部 歌舞伎 松羽目物 太刀盗人



※写真は既公演より

田舎者の万兵衛が持っている立派な太刀に目を付けた、すっぱ(盗人)の九郎兵衛がその太刀を奪おうと争っているうち、どちらの所持品なのかわからなくなってしまいます。目代が従者を連れて出てきて、田舎者とすっぱを裁くことになりますが、太刀の由来や銘などを聞いてもどちらも同じ答えです。田舎者はすっぱが立ち聞きして自分の答えをマネしていることに気付き、最後に太刀の長さをすっぱに聞こえぬよう目代に小さな声で伝えます。すっぱはついに太刀の寸法が言えず、悪事露見となってしまおうという、歌舞伎の名作です

出演者

帆之丞

立花志十郎

大河寛

藤田隆之

花柳琴臣

